仕事と信仰

難しくても「神様の力で愛する」

Lightプロジェクト「信仰と仕事」ワークショップ

グレースシティーチャーチ東京（福田真理牧師）信仰と仕事ミニストリー「Lightプロジェクト」（ディレクター・サックス知子）の「『信仰と仕事』ワークショップ」が9月7日、東京・新宿区谷田町の貸会議室で開かれた。同ワークショップでは、一般社会で働くクリスチャンが抱えている仕事の課題や葛藤を話し合い、コミュニティーに励まされながら、聖書と神様からの導きを一緒に探求する。今回のテーマは「上司や同僚を愛するとは？」。3人の社会人クリスチャンが、「上司や同僚を愛する」ことの葛藤について自身の体験を分かち合った。

◇　◆　◇

一人目は、23年前に日本に留学し2年後に東京で受洗、現在はコールセンターを中心とした事業を展開する会社に勤務中の李智芸（イ・ジウン）さん（東京キリストの教会員）。李さんは昨年、仕事のプレッシャーと上司との関係などで体調を崩し、6か月休職したことを明かした。「上司から感情的に責められたり、自分に対して尊重しない言葉や態度を取られたりすると、不安と恐れを感じやすい。上司に評価されないと、自分に価値がないと思ってしまう。そんな時は自信を失い、萎縮し、身も心も自分を守ることでいっぱいになる。復職後も昨年のトラウマもあり、慣れるまで葛藤があった」

こんな体験も証しした。プレゼンの後、上司から「李さんの説明は、何のために、何をしようとしているのか分からない。もう一度整理してください」と言われ、「怒りが収まらず、仕返ししたい思いでいっぱいになった」。だが、「神様は上司を愛し、上司のためにもイエス様は十字架にかかってくれた」ことを思い出し、「彼を愛せるよう助けてください」と祈ったと語る。「自分を傷つけた上司をも、イエス様は命がけで愛してくれた。そのことを受け入れたくない心の葛藤があった。けれど、神様は私の心を変えてくださり、怒りから解放された」。「上司や同僚を愛するのが難しい時は、自分の力でなく神様の力に頼ることを学んでいる」とも語った。

二人目は、今年4月の統一地方選挙で当選し、市議会議員になった八島堅志さん（インマヌエル名古屋教会員）。八島さんは「このテーマをいただいた時、上司と同僚はどういう人に当てはまるのか考えさせられた」と語る。「市には22人の議員がいるが、与党、野党、所属グループ、選挙エリアなど、個人の意思を超えた、議員独自の概念が入って来て独立した存在なので、一緒に働く同僚とは色合いがちょっと違うかな、と。議員同士は基本的にはうまくやっていくが、議員間で深くなりすぎると、その情報が何かあった時の火種となってしまう可能性があることから、本音と建前でもどかしいという思いもある」

そんな中、他の議員と分かち合えた経験を話した。「先日、同僚議員の親族の葬儀に出席した。その議員は入口に立ち、疲れ切った顔で来た人にお礼を言っていた。私の顔を見た時は、ハッとした表情で、深々とお辞儀をしてくれた。その時に思ったのは、誰でも苦しい時、悲しい時がある、普段、議論の場にいるとは言え、議員としてではなく人として、相手の苦しみに寄り添うことが許されているんだなと感じた。僕はそこで天国に思いをはせることができたし、神様の前では平等であり、愛されている存在であることにも気づかされた」

この体験を通し、「自分と相手がいい関係を築けていなかったとしても、自分自身がそこに歩み寄り、積極的な姿勢を取っていくことが、イエス様の十字架によって与えられた私へのチャレンジではないかと思わされている」と語った。

三人目は、520床ある都内の総合病院の内科病棟で主任看護師をしている蛭沼恵美さん（草加福音自由教会員）。蛭沼さんは「これまで大きな人間関係のトラブルもなく過ごしてきた。後輩もかわいいし、上司ともうまくやっている。けれども、職場の上司、同僚に『愛する』という言葉で表現することはなかった。そんな自分の心の状態に気づかされた」と話す。「職場では、思いやる、尊重する、折り合いをつける、うまくやる、と言うことが多い。思いやりは愛の表現の一つだが、決定的な違いがあるように思う」

浮き彫りになったのが「無関心な自分自身の姿だった」と言う。「私には後輩が30人近くいるが、役割上、申し送り、報告、看護ケアの相談を受ける。自分も業務に追われ忙しいことも多く、タイミングが悪い時には、適当に相づちをして頭の中では別のことを考え、当たりさわりのない返答をしてしまっている。それはその人の働き、存在をないがしろにしていることだと思った。イエス様は能力のあるなしに関わらず、そのままで愛してくださる。神様の愛、そのまなざしを私自身が受け取る必要があった」

月80時間以上時間外労働するほどのワーカホリックで、「この10年近くのプライベート、教会生活がどういうものだったか記憶にない」とも明かした。「自分だけこんなに頑張らなければいけないのか、というゆがんだ思いにかられる。そのような思いや考え方から解放され、その存在そのままを愛することが必要なんだなと思った」

「これはあなたがたの戦いではなく、神の戦いである」（Ⅱ歴代誌20・15）を引用し、「どんなに愛せない、無理だという状況でも、共に戦ってくださる主に信頼し、仕事を通して愛する決断をさせていただきたい」と語った。（つづく）

URL www.lightproject.jp

【中田　朗】

上司や同僚を愛するとは？（上）

李智芸さん

八島堅志さん

蛭沼恵美さん